

命を守れ、オオタカを守れ

中津川市にできるリニア中央新幹線駅へのアクセス道路建設予定地で希少種のオオタカの生息が確認された問題で、日本自然保護協会は、生息状況の調査を求める要望書を12月26日、県と中津川市に提出しました。オオタカはレッドリストで準絶滅危惧種とされ、近くの林で巢も確認されました。

要望書では同会は「オオタカの繁殖期を考慮し、調査をする必要がある」として、早期の調査開始を求めています。岐阜県道路建設課は「オオタカを含めた調査は実施する。専門家の意見を聞きながら調査方法や時期を決めていく」としています。



疑問にこたえず突き進むのは許されないーリニア工事着手

JR東海が、リニア中央新幹線(東京・品川―名古屋)建設のための「安全祈願式」を品川、名古屋両駅で実施しました。同社は事実上の着工と位置づけますが、リニア建設への周辺自治体や住民の不安や疑問は消えていません。沿線自治体で行われた説明会などで、おぎなりの説明を繰り返すJR東海への住民の不信は高まるばかりです。異論を無視して、既成事実を積み重ね、建設に突き進むことは、将来に重大な禍根を残します。

JR東海は、リニア中央新幹線を品川―名古屋間で2027年に開業させ、45年に大阪まで延伸させる計画です。品川―名古屋の8割以上を地下トンネルで結ぶなど日本の大型開発史上で例のない超巨大プロジェクトです。

自然も生活も破壊する

自然環境や住民生活への深刻な影響、地震への備えなどに不安と懸念が広がっているのは当然です。過大な利用者数見積もりなど採算面の問題も多く、JR東海が負担する総事業費9兆円(品川―大阪)が、国民にツケ回しされかねない危険も明らかになっています。

これほど危険で無謀なリニア計画を、安倍晋三政権は「成長戦略」の一つと位置づけ、国土交通省は10月、着工を認可しました。問題だらけの計画にお墨付きを与えたやり方は、住民の願いに背を向けたものです。リニア建設沿線の7都県(東京、神奈川、山梨、静岡、長野、岐阜、愛知)の住民約5000人が国交省に「着工認可取り消し」を求める行政審査の異議申し立てを行ったことは、リニア計画が住

も、つぎ込まれた膨大な費用は返ってきません。

リニアは国民が願って計画されたものではありません。膨大な電力を消費するリニアは省エネルギー社会にも逆行する「お荷物」でもあります。リニア建設は中止し、国会を含め国民的な議論を行うことが求められます。(18日主張)

5000人異議申し立て 「環境破壊だ」

リニア中央新幹線の建設は国民が必要とせず自然環境を破壊するとして、沿線7都県の住民ら約5048人が16日、国土交通相の建設認可の取り消しを求め、行政不服審査法に基づく異議申立書を提出しました。認可された区間は東京―名古屋間。JR東海は2027年開業をめざし、17日着工に向けた作業を開始しました。

申し立てたのは、「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」に参加する各都県の住民団体や地域住民です。

リニア新幹線について申立書は、在来線との相互乗り入れができないため利便性向上につながらず、リニアだけでは採算が取れないため国の財政支援の可能性があると指摘しています。

さらに南アルプスを貫くトンネル工事で「自然環境が回復不可能なダメージを受け、住民生活に大きな影響を与える」と強調。工事にもなう膨大な残土の処理方法が不明であり、リニアは大量の電力を消費する上、運行の安全性や人体への影響についても数々の疑問や問題点を抱えていると強調しています。

計画止め国民的議論を

今回の「祈願式」は着工とはいっても、JR用地内での資材置き場整備などにとどまり、計画予定地の数千人にのぼる地権者との交渉などはこれからです。計画を中止させることは可能です。

一度破壊されれば貴重な自然環境を取り戻せません。完成してから「見通しが甘かった」と失敗を悔やんで